

急に秋らしい気温になり、自然界もあわてて冬支度に入る気配がしてきました。木々の枝先にもたくさんの“秋”が目立ち始めています。今回は、秋の木の実を代表するドングリを観察してみましょう。

## ドングリってなあに？

ドングリとひとくちに言っても、たくさんの種類があります。植物学的に言うと、「ブナ科の堅果（堅い殻を持つ果実）の総称」という定義があります。広い意味では、クリもドングリ的一种ということになります。一方、トチノキの実のように、見た目もドングリと似ていますが、堅い殻を持っていますが、トチノキはブナ科でないのでドングリには含めません。

相模原周辺のドングリには、大きく分けて6種類あります。ナラ、カシ、ブナ、スダジイ、クヌギ、マテバシイのドングリです。さらにナラはコナラとミズナラ、カシはシラカシ、アラカシなど5種類以上、ブナはブナとイヌブナの2種類がありますが、ほかはそれぞれ1種類ずつです。博物館のまわりでは、これらのうち、コナラ、シラカシ、クヌギの3種類が見られます。マテバシイも近くの公園などにありますが、すべて植栽されたものです。

## ドングリを見分けよう

博物館のまわりで見られる種類限定ですが、葉とドングリがセットになっていれば見分けることができます！まずは、下のドングリの絵と、対応する葉を線で見つけてみてください。

クヌギ



•



•

コナラ



•



•

シラカシ



•

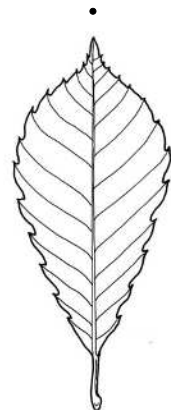


•

マテバシイ



•



•

次回のお知らせ

ミニ観察会：10月26日（土）12時から  
新聞 No.31 も観察会にあわせて発行します。

